

桜真

NO.45

2018(平成30)年2月23日発行
岩瀬日本大学高等学校
<http://www.tng.ac.jp/iwase/>
父母と教師の会
〒309-1453
茨城県桜川市友部1739
TEL 0296-75-2242
FAX 0296-75-4905



2学年

オーストラリア修学旅行





全2学年 オーストラリア修学旅行

オーストラリアの都市ケアンズで、サンゴ礁群グレート・バリア・リーフとクイーンズランドの湿潤熱帯地域の、2つの世界遺産に直に触れました。また、ファームステイを通して、異文化に触れコミュニケーション能力を高めました。



月日	曜	行程
10月16日	月	成田国際空港から機中泊
10月17日	火	ケアンズ国際空港着 ジャブカイパークで朝食buffet、アボリジニ文化体験 ハートリース・クロコダイルアドベンチャーズ (動物園、ボートクルーズ)
		カラボニカ駅からスカイレールで世界自然遺産の熱帯雨林の絶景を堪能 キュランダのビレッジでお土産屋や有名なアイスクリーム屋さんを観光 アサートン高原でホストファミリーと対面
10月18日	水	ファームステイ体験
10月19日	木	ファミリーとお別れしてフェリーでグリーン島へ
		ケアンズ市内班別自主研修 ヒルトンホテル宿泊
10月20日	金	成田国際空港着



体育祭

「団結く岩日魂に火を付けろく」

10月27日(金)秋晴れの下、体育祭が行われました。

徒競走や借り物競走などの個人種目と、綱引きや大縄跳びなどの団体種目の全20種目が行われました。結果は、優勝3年2組、2位2年4組、3位1年3組でした。



「温故知新」岩瀬日大高の学び



校長 齊藤 克朗

春光うららかに天も地も躍動を始める季節を迎えました。父母と教師の会の会員の皆様には、日頃から本校の教育活動につきまして深いご理解とともにご支援をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

「光陰矢の如し」、今、三年生は新たな門出の時を迎えています。これから社会の一員としての責任や役割をどのように果たしていくのか、各々が選択した道においてどんな活躍を見せてくれるか、それを楽しみにしているところではあります。また現役生には、社会の変化が著しい時代にあつて、長い人生を後悔なく過ごすために「自立の力」をどう構築していくのか、自分探しの旅を大いに楽しんで欲しいと思います。そして私たち教職員も、生徒たちの人生に関われることに喜びを感じ、それぞれが抱いている夢に多くの者が近づけるよう、その基盤づくりに全力で支援にあたりたいと考えています。

言うまでもなく生徒たちの高校

生活は今後の人生に大きな影響を与えます。よって、感性が豊かで柔軟な感覚を持つこの年代での活動は極めて重要になります。より良い未来の構築には個々の努力は勿論ですが、学校や家庭のサポート力は不可欠で、関係者の学校理解とともに信頼関係がとても重要になります。ここに岩瀬日大高校の教育について述べさせていただきますので、本校理解が一層進展できれば幸いと思うところであります。

本校は単独校となつて十六年目を迎えています。これまで多くの先人たちのご努力によって順調な発展を遂げてまいりました。新たな時代を迎え、「温故知新」の実践により、さらなる飛躍を目指したいと考えています。

系列トップにある日本大学は十六学部八十六学科を擁しその規模を活かし様々な専門性を志す学生たちが学部・学科の枠を超えて交流できる国内最大の私立総合大学です。教育理念は「自主創造」、目的と使命は「自ら学ぶ」「自ら考える」「自らの道を拓く」という三

つの能力開発にあります。限られた期間で質の高い教育を施し「日本大学マインド」を持った学生を育成し広く国家・社会に貢献することを教育方針としています。

その日本大学の教育理念に基づいて本校の教育の方向性が定められています。まずは校是（一般的には校訓）、「調和・至誠・自立」を掲げています。これは日本大学の「中道の精神」を高校生の段階から養って欲しいとの考えから定められました。私学の特性を活かした教育により、広く世界を理解し文化的調和を図り、豊かな教養と健全なる精神、誠実な市民性と自立の心を育成することを示しています。こうした教育の方向性は日本大学に限らず、人として大切な素養でもあり「生きる力」の醸成に繋がるものです。次に、本校の教育方針として「略」生徒一人一人に寄り添い、個々の能力の伸長と豊かな人間性を養い社会に貢献できる人材の育成」を謳っています。具体的な施策は三つで、一、「自ら学び確かな学力の向上」で、

様々な教育形態により学習意欲を高め能力開発に努めます。二、「社会で求められる人材の育成」で、個々に自己を律し自主性や自立性を養います。そして三、「道を切り拓く力の育成」で、個々の希望を叶えるための基盤作りを行います。いずれの資質向上も生徒たちの主体的な学びに頼るところが大きいのですが、高校生活を通して少しでも多くの能力や技能の伸長を図り、社会で活躍できる資質を養成していきたいと考えています。これらの目標達成に向け、本校では長きにわたり受け継がれている言葉があります。「場を清め、時を守り、礼をつくす。」という言葉です。これは教育学者の森信三先生が提唱した職場再建の三原則なのですが、何事にも通ずる教えます。「時を守り」とは文字通り時間厳守で、時間的余裕が他者を気遣う姿勢になり自分の信用に繋がります。「場を清め」とは清掃を意味し、身の回りの整理整頓が五K（気づく・心を磨く・謙虚・感動・感謝）と表される心の芽生えに繋がります。「礼をつくす」とは心を開いて相手と接すること、挨拶や言葉の交信によって人間関係を構築していきます。全ての人々がこうした精神を大切に生活することにより社会全体の規範や安定に繋がっていきますので、本校では、これからもこの言葉の継承に努めたいと思っています。こうした環境で成長した本校生

のほぼ全員が、卒業時には上級学校へと進学していきます。希望の実現にはそれぞれの条件の違いを埋めなければなりません。環境や才能に恵まれているならともかく凡人ならば普通のことをしていても良い結果は得られません。好条件者に勝つには、「うさぎと亀」の寓話の原理の実践が必要です。どんな世界でも力のある人が頑張っている時には張り合っても勝機はつかめません。他人が休んでいる時や遊んでいる時に頑張るから目標や目指す人との距離も縮まるのです。日々の地道な積み重ねが重要で、学習の習慣化によって学力を付け、活力ある生活の習慣化により人間力を高め自己実現を目指して欲しいのです。

私たちの一年に春夏秋冬があるように人生にも四季があります。冬の厳しさを味わい次に訪れる春の到来には生命の息吹と喜びを感じ、そして季節毎の暮らしの出来事によって人は鍛えられ、崇高な人間性や勤勉な心が育ちます。「逆境は人を育てる」の言葉がありますが、成功者は誰しも、難しいという環境に打ち勝つ経験を持っています。未来を担う本校生には、あらゆる試練も今後の成長の糧にできるよう、様々なことへの挑戦を続けてくれることを希望いたします。今後とも父母と教師の会の皆様方の一層のご理解とご支援をお願いいたします。

部活動結果報告

卓球部

全国高等学校卓球卓球選手権大会

- 【男子シングルス】2回戦敗退
高塩 晴貴(日大3-3)
- 国民体育大会卓球競技少年の部
【少年男子】1回戦敗退
高塩 晴貴(日大3-3)

日本大学体育大会高校卓球競技の部

- 【男子団体】第3位
須田 陽太(日大2-1)
猪瀬 旬啓(日大2-1)
菊地 勇伊(総合2-5)
川内谷風美(日総1-1)
篠部 亮(日総1-1)
鈴木 皓貴(日総1-1)
星野 峻佑(日総1-3)
小山 嵐士(日総1-4)
- 【男子シングルス】第2位
星野 峻佑(日総1-3)
- 茨城県高校卓球新人大会
(団体の部)
【男子団体】第1位

ライフル射撃部

関東高等学校ライフル射撃競技選抜大会県予選会

- 【エアライフル女子個人】
第1位
海老澤美沙(日大2-2)

茨城県高等学校ライフル射撃競技

技新人大会

- 【エアライフル女子個人】
第3位
海老澤美沙(日大2-2)

陸上部

茨城県高等学校陸上競技新人大会

- 【女子砲丸投げ】出場
中川 摩依(総合2-5)

剣道部

第50回茨城県高等学校剣道勝ち抜き大会

- 【男子団体1部】第5位
宮田 拓実(日大2-1)

- 赤城 颯汰(日大2-2)
佐々木夢翔(日大2-4)

- 江田 展人(総合2-5)
小木曾太陽(日総1-3)

- 大谷 優斗(日総1-4)
小川倫汰郎(日総1-4)

- 【女子団体1部】第2位
小竹 理子(日大2-1)

- 佐藤 愛唯(日大2-1)
小倉 未夢(日大2-4)

- 駒田 奈都(総合2-5)
曾雌 瞳(総合2-5)

- 鬼澤 京花(総合2-5)
稲葉 琉華(日総1-2)

- 8人抜き表彰
駒田 奈都(総合2-5)

新人戦兼全国選抜高等学校剣道大会茨城県予選

- 【男子団体】第3位

日本大学体育大会(付属大会)剣道競技の部

- 【女子団体】優勝
優秀選手賞
駒田 奈都(総合2-5)



ソフトテニス部

茨城県高等学校ソフトテニス新人大会

- 【男子団体】第3位
小菌井宏季(日大2-2)

- 中里 瞭太(日大2-4)
久松 和真(日大2-3)

- 星野 智紀(日大2-3)
前口 慶輔(日大2-3)

- 鈴木 晟史(日大2-4)
松嶋 樹(日大2-4)

- 齊藤 雄大(日総1-2)

- 【男子個人】第3位
松嶋 樹・鈴木 晟史

- ベスト16
前口 慶輔・齊藤 雄大

- ベスト32
吉田 将真(日総1-3)
武田 幸樹(日総1-1)

【女子個人】ベスト32

- 宮田 愛未(日大2-3)
比企 裕雅(総合2-5)

茨城県高等学校ソフトテニスインドア大会

- 【男子団体】第3位
小菌井宏季・久松 和真

- 星野 智紀・前口 慶輔
鈴木 晟史・松嶋 樹
武田 幸樹・齊藤 雄大

サッカー部

第96回全国高等学校サッカー選手権大会茨城県大会



【決勝トーナメント】1回戦

- 海老原昌平(日大3-3)

- 鈴木 颯太(日大2-1)
片野 真博(日大2-1)

- 川崎 元彌(日大2-2)
久保 龍也(日大2-2)

- 白田 賢史(日大2-2)
久松 和生(日大2-2)

新聞部

第41回全国高等学校総合文化祭(2017みやぎ総文)文化連盟賞

- 田崎 駿介(日大3-4)
薬 真優子(総合2-5)

第9回茨城県高等学校新聞コンクール優秀賞(第2位)

*第42回全国高等学校総合文化祭(信州総文祭)への出場決定

茨城県高等学校文芸部中央大会

文芸部

【散文の部】佳作

- 仁平 知志(国立3-6)

個人

NU祭書道部門校友会特別賞

- 川俣 胡桃(日大2-1)
舟橋 美玖(日総1-2)

の 言 葉



3年1組の軌跡

3年1組 大内 陽

2年の始めの頃。最初は話し合いもなかなかまとまらなかったのですが、宮内先生が皆をまとめてくれました。そして、3年では全員が協力し合って桜瑛祭、体育祭などの行事を成功させることができました。宮内先生、支えてくださった先生方、3年1組の皆、本当にありがとうございました。



卒業間近になつて

3年2組 二宮 夢奈

この学校で過ごした日々は、とても感慨深いものとなりました。今までの友人と笑って過ごすことができなくなると考えると、前までは早く卒業したいと思っていたのに、とても寂しくなりました。本当に楽しい毎日でした。



人生の旅立ち

3年3組 稲葉 瑞希

岩瀬日大で過ごした3年間はとてもあっという間でした。この3年間は楽しいことばかりではなく辛いこともありましたが、18年間の中でとても成長できたと思います。社会に出る上でたくさんのお話を教えて下さった先生方や両親、先輩、そして私達に関わって下さった人に感謝をしてこれから頑張りたいです。ありがとうございました。

旅立ち

個性

3年4組 古室 春輝



3年4組は笑いの絶えないクラスで、個性を發揮し高め合うことができました。今振り返るととても充実した高校生活でした。このクラスのメンバーと木川先生に出会うことができ、最高に幸せです。

最高の総合クラス

3年5組 佐野 滉太



桜花祭ではみんなで協力し、一致団結して優勝することができ、絆が深まったと思います。5組は個性の強い人が多く、明るく賑やかで、居心地の良いとても楽しいクラスです。大人になってもずっと忘れません。

これから

3年6組 仁平 知志



いつも通り登校して起立礼をした高校生活。自分や、友達、家族や世界がいろいろ変わった。次は何が変わるのだろうか。私達が歩む道はまだ誰も知らない。恐れるものは何もない。私達は無限の旅人なのだから。

一年間を振り返って



父母と教師の会

会長 早瀬 純子

今年の冬は寒さが厳しく、北陸では大雪にみまわれるなど天候も不安定でしたが、花屋さんには春の訪れを告げるかのように、パステルカラーの花がところ狭しと並んでいます。そのような花を見ていると自然と心が弾みます。

保護者の皆様には日頃より父母と教師の会の活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年五月の総会において会長を仰せつかり、女性初の会長が務まるかという不安で一杯でしたが、校長先生を始め諸先生方、役員の皆様のお力で無事務めることが出来たこと、心より感謝申し上げます。

活動を通して感じたことは、教師の熱心な指導とその指導に応えていく生徒の信頼感の強さです。教師の生徒を思う気持ち、自然に生徒に伝わり絆に結びついているのです。

そして、教師と生徒、保護者「三者の絆」が強くなる行事として桜瑛祭があるのではないでしょうか。桜瑛祭を通して、そ

れぞれが一つの目的を持ち、目標に向かい取り組んでいく。これこそが、本校の特長であり、魅力だと思います。こうしてできた絆は将来変わることなく、それぞれの根付いて芯となっていくことでしょう。

三年生は卒業を迎え本校を巣立っていきますが、ここで学んだこと、培ったことを、心に置き自分の礎とし、これから向かうそれぞれの道を前進してください。そして、ひとり一人真剣に対応してくださった先生方、保護者への感謝の気持ちを忘れずにいてください。

また、在校生のみならず先人達が培ってきた伝統を引き継ぎさらに飛躍・前進することを願っています。

生徒たちの健やかなる成長の手助けとなるような活動を今後も続けていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

最後に、岩瀬日本大学高等学校ならびに会員の皆様の益々のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

支部活動を通して

桜川支部
支部長 廣瀬 幸司

桜川支部の役員としての三年間を振り返りますと、子供の成長とともにあつという間に過ぎていったような気がします。

特に支部長に選任されたこの一年間は、緊張の連続ではありましたが、会員の皆様をはじめ、役員の皆様、先生方のご指導とご協力により、無事こまめでやり遂げることができました。この場をお借りいたしました。深く感謝申し上げます。

支部の活動として、桜瑛祭では準備から販売に至るまで、役員一丸となって色々な意見を出し合い、協力することによって一体感が生まれ、親睦が図られました。また、多くの生徒たちとふれあうことで、イベントに積極的に参加する生徒たちの姿を間近に見ることができ、学校生活の環境の良さを感じ、保護者として本当に嬉しい気持ちになったことが思い出されます。

このような素晴らしい環境の中、一役員として携われたことは大変有意義であり、貴重な体験であったと思います。本当に有難うございました。

最後に、会員の皆様ならびに岩瀬日大高校の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

支部活動を通して

下館支部
支部長 亀田 正子

二人の子どもがお世話になっている学校に少しでも恩返しができるばと引き受けた支部役員。ところが支部長という大役までいただき、はじめは責任感に押しつぶされそうでした。そんな私を先生方や支部の会員の皆さま、ともに活動してきた支部役員の皆さまが温かく支えてくださり、深く感謝しております。

支部活動の中でもっとも思い出深いのは、やはり桜瑛祭でしょうか。保護者の皆さまにお手伝いしていただき、じゃがバターを完売することができました。支部として模擬店を出すことで、子供たちと一緒に桜瑛祭に参加し、楽しみ、盛り上げたという充実感や達成感を味わうこともできました。このような機会がなければ保護者同士が交流することはなかなかありませんが、準備の合間に学校のことや進路について情報交換ができたことはとても有意義な時間だったと思います。

人と助け合う大切さを痛感した一年間でした。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

最後に、息子は卒業となりましたが、私に出来ることがあれば今後も岩瀬日大高校発展の為に協力させていただきます。ありがとうございます。

支部活動を振り返って

県西支部
支部長 小林 雄二

この一年の支部活動を振り返ってみますと、あつという間の出来事だった様な気がします。

充実した活動を推進出来たのも役員の皆様の御支援御協力、また、先生方のお力添えのおかげであり大変感謝しております。

県西支部の大きな活動として桜瑛祭の模擬店出店と地区懇談会を行いました。桜瑛祭での模擬店では、毎年恒例の焼きそばが大盛況にて1,050食完売となり、桜瑛祭の盛り上がりにも多少なりとも貢献出来たのではないかと考えております。

また、9月に開催した地区懇談会では、先生方含め48名の御参加をいただきました。一時間では時間が足りず、会終了後も先生方と熱心に話し込んでいる様子があちこちで見受けられ充実した懇談会になった事を嬉しく思いました。

最後に、息子は卒業となりましたが、私に出来ることがあれば今後も岩瀬日大高校発展の為に協力させていただきます。ありがとうございます。

すべてに感謝

北つくば支部
支部長 塚田 裕史

役員として経験のない私が、ましてや支部長としての大役を仰せつかり、不安の中で新年度を迎えた昨年の四月の自分を今、思い出しております。

校長先生を始め、支部担当の諸先生方、経験豊富な先輩役員の方々、会員の皆様には、たくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。

年間を通しての最大の行事である桜蔭祭で、縦、横、地域を超えた交流をさせていただけたことは、大変に嬉しく喜びであり、私にとって貴重な体験となりました。かけがえのない大きなものを得させていただき、感謝いたします。

父母と教師の役員会に参加させていただいた折には、生徒たちの部活動での活躍や、学習や進路の状況をお聞かせいただき、学校をより身近に感じることができました。

熱心で時に厳しく、温かな先生方に囲まれて、日々を楽しく過ごす我が子を見ておりますと、岩瀬日大を選んでよかったですと痛感致します。

すべてに感謝、ありがとうございます。

三年間の支部活動を通して

ときわ支部
支部長 井坂 英典

「わたしと息子、岩日、ときわ支部の出会い」

寒い桜雨の中、期待と緊張の中で臨んだ平成27年度入学式。

大塚日本大学学長、齊藤校長に温かく迎えていただいたのが印象的でした。早いものであれから三年が経とうとしています。私自身の支部活動は、フレンドリーな役員に恵まれ活発に活動でき感謝しきりです。

「思い出深いときわ支部活動」
様々な支部活動の中でも桜蔭祭の焼き鳥が一番の思い出です。焼き鳥と言えよときわ支部、ときわ支部と言えよ焼き鳥。お母さん達のセンス抜群の接客、お父さん達の絶妙な焼き加減でトータル3、900本を屋前に完売する盛況ぶり。支部の皆さんの団結力は素晴らしいです。

「岩日は生徒の希望を叶えてくれる学校」
学校はそこに通う生徒の為にあります。その上で保護者や先生方、生徒が関わり「全員が同じ方向を向くことの大切さ」を教えていただきました。スポーツに進学、これからも「生徒の希望を叶える岩日」である事をお祈り致します。3年間どうもありがとうございました。

一年間を振り返って

栃木支部
支部長 斎藤 慎一

栃木支部の会員は年々増加し、生徒数134名、会員数132名と今年度も最大支部として活動してきました。

四年前に娘がお世話になり、今年は、息子も先生方の熱心な御指導で、無事大学に合格できました。娘の入学前から「岩日は遅くまで指導してくれて、塾に行かなくても大丈夫。」「最後まで、一生懸命に指導してくれるから。」と聞いていた通り、二人の子どもを見て頂き、本当に入学して良かったと実感しています。

栃木支部の最大の特徴は、年三回ある懇談会です。多数の会員の参加があり、先生方や先輩会員の方の様々なアドバイスによって、安心して学校へ通うことができました。

親子共々、高校が終わってしまうのは寂しいですが、この岩瀬日大高校の先生方、父母の皆様、子どもたちが一体となつて、さらに発展していくことをお祈りするとともに、会員の皆様の温かい御支援に、改めて深く感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。

成人教育研修会報告

成人教育委員会

委員長 田林 勉

平成29年11月25日。保護者31名、生徒1名、小泉教頭先生、担当の先生方のご参加をいただき日本大学理工学部見学と銀座散策という行程で成人教育研修を実施しました。

最初に理工学部駿河台キャンパスを訪れ、浅井教授のセミナーを拝聴しました。教授の話は、理系文系の違い、学部の違いなど子供達の進路を選択するのにとっても参考になるお話でした。また、身近にあるグラフや表の「数字のトリック」の解説はとても興味深い内容でした。

その後研究室へ移動し、研究されているプラズマの装置を学



生さんに案内していただきました。プラズマガンという装置を実際に動かしていただいたり、光プラズマを触らせていただきプラズマのひんやりした感触を体験できました。教授や学生の方々の日々の研究が未来へ繋がっているのだなと思いました。

昼食はキャンパス内の学食でいただきました。学生に戻った気分は何を食べようかと選び、歓談しながら食事をいただきました。

午後は銀座に向かいギンザシックスを中心に自由散策しました。限られた時間ではありましたが、買い物やカフェでくつろいだりと楽しい時間を過ごすことができました。

今回の研修会を通じて保護者や先生方との交流を深めることができました。私自身オーブンキャンパスに行ったことがなかったのが大学の見学も新鮮で刺激的でした。研修会が毎年開催されていることは知っていても今まで参加しなかったことを後悔もしました。1、2年生の保護者の皆さま、参加して良かったと思える研修会を毎年企画しております。来年のご参加お待ちしております。

NU祭15年連続入賞!

国立2年6組
担任 長田 光司

今年度のNU祭は11月25日(土) 日本大学会館(東京市ヶ谷)で

行われ、本校の桜瑛祭におけるクラス企画(展示部門)で優勝した国立クラス2年6組が代表として参加しました。現在のNU祭は、展示の様子を2分間の映像にまとめて発表し、出席者(大学の先生方・学部生・付属高生)の投票で順位が決まるので、6月の桜瑛祭終了後から、ポイントを押さえて2分間にまとめること、投票してもらえるようなインパクトのある映像に



することを心がけながら準備を進めました。

当日は、代表生徒(野村翼さん、小池菜々子さん、保科洗貴さん、岡野慎太郎さん)のみの参加でしたが、映像を流す前のスピーチでは、野村さんと小池さんが、他の付属高校の生徒や学部の学生を前にしても気後れすることなく、元氣よく堂々と、展示への思いを話すことが



できました。全国に25校ある付属高校の中での入賞：当日参加した代表生徒の頑張りと、映像の中に登場するクラス全員の取り組みが融合した結果だと思えます。本当に立派でした。

いよいよ3年生となるクラスの生徒たち。クラスの絆で掴んだこの成果を学習や生活、そして将来につなげることができたとき、いただいた賞はさらに輝くのではないかと思います。最後になりましたが、御協力いただき、見守っていただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。



平成29年度 3年生合格先区分別概況

※合格数は1月15日までの結果です。

1. 日本大学 合格者数 97名

学部名	合格数	学部名	合格数	学部名	合格数
法学部	17名	文理学部	19名	経済学部	5名
商学部	11名	芸術学部	1名	国際関係学部	7名
危機管理学部	2名	理工学部	8名	生産工学部	14名
工学部	3名	生物資源科学部	9名	薬学部	1名

2. 私立大学 合格者数 30名

大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数
青山学院大学	1名	大東文化大学	1名	常磐大学	2名
神奈川大学	2名	千葉商科大学	2名	日本医療科学大学	1名
国際医療福祉大学	4名	つくば国際大学	5名	日本保健医療大学	1名
実践女子大学	1名	東海大学	1名	白鷗大学	3名
上武大学	2名	東京未来大学	1名	流通経済大学	1名
大正大学	2名				

私の高校時代 ⑱

塩田 悠一 先生

■プロフィール

- 誕生日：昭和58年4月19日
- 出身地：ひたちなか市
- 出身校：茨城県立水戸商業高等学校
- 最終学歴：日本大学文理学部体育学科
- 好きな言葉：「志を持って」
「自分との闘いに勝つそれがもっとも偉大な勝利である」
- 趣味：子供と遊ぶこと



私の高校時代は「栄光と挫折」の3年間でした。サッカー部に所属し3年間サッカーに打ち込む日々を思い出します。伝統校で1年生からレギュラーを勝ち取り、岩手インターハイ第5位、U-17ナショナルトレセンの練習会にも関東選抜の選手として参加しました。しかし、2年生になると怪我との戦いの日々でした。練習は休まなかったものの、夏頃から、左太ももの肉離れからの筋断裂で思うようにプレーができなくなりました。直後の秋には試合中に右目の視力を失う外傷性黄斑斑孔という網膜の中心付近に穴が空く怪我との戦いでした。手術と1ヶ月の入院生活。医師からは運動はもうできないと言われました。サッカーしかなかった私には、とてもショックな出来事でした。家族の支え、仲間の支えがあり、なんとか乗り越えることができました。父親からは、「お前にはサッカーしなさい。後悔しないようにしろ」と言われ、リスクをしょってでもプレーを続けようと言いました。両親とセカンドオピニオンで、東京の大病院にも通いました。両親には本当に感謝しています。恩師からは、「神様は乗り越えられる者にしか試練を与えない」と励ましをいただき、怪我をしているにもかかわらず、キャプテンに指名していただきました。物事を前向きにとらえ、責任感をもって取り組むことができるようになりました。半年後の5月、3年生のシーズン開幕には何とか間に合うことができ、悔いなくサッカーをすることができました。これも、支えてくれた方々のおかげだと感謝しています。通算成績インターハイ2回、関東大会1回、2年連続国体選手と充実した3年間の部活を送ることができました。また、「礼儀」や「責任感」や「感謝の気持ち」など、社会で通用するベースを学ぶことができました。人として成長できた実感できる高校生活を送ることができました。



高校時代は、様々な事で悩む時期です。でも決して1人ではない、支えてくれる人や仲間が必ずいます。悩むことは成長の証でもあります。教員になった今、生徒に向き合えば少しでも悩みを分かち合えればと思えば日々取り組んでいます。生徒と共に学び、悩み、分かち合いながら今後も成長していきたいと思えます。



試合で活躍する塩田先生
(写真中央)

3. 私立短期大学 合格者数 12名

大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数
川口短期大学	1名	駒澤女子短期大学	1名	つくば国際短期大学	1名
國學院大学栃木短期大学	2名	佐野日本大学短期大学	6名	常磐短期大学	1名

4. 専門学校等 合格者数 19名

学校名	合格数	学校名	合格数	学校名	合格数
宇都宮日建工科専門学校	1名	埼玉ベルエポック製菓調理専門学校	1名	服部栄養専門学校	1名
宇都宮ビジネス電子専門学校	1名	つくばビジネスカレッジ専門学校	2名	ホスピタリティツーリズム専門学校	1名
大原簿記情報公務員専門学校	1名	国際TBC調理・パティシエ専門学校	1名	マロニエ医療福祉専門学校	2名
晃陽看護栄養専門学校	2名	東京観光専門学校	1名	山野美容専門学校	1名
国際テクニカルデザイン専門学校	1名	東京モード学園	1名	茨城県立農業大学校	1名
				日産栃木自動車大学校	1名

5. 就職 合格者数 4名

就職先名	合格数	就職先名	合格数
茨城県警察	3名	株式会社スミハツ	1名

藝科宿泊学習

1 学年
平成29年10月



編集後記

「桜真」45号をお届けします。発行にあたりご寄稿いただきました校長先生をはじめ諸先生方、父母と教師の会長長早瀬様、成人教育委員長田林様には多大なるご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

2年生のオーストラリア修学旅行は、委員会のメンバーたちがとても素敵な学習レポートを作成し、ファームステイやケアンズ市内散策を通じて国際感覚を身につける貴重な機会となったことでしょう。

世界遺産のグレートバリアリーフの自然、外国文化に触れるなど素晴らしい体験でした。帰国した生徒達の姿がたくましく見えました。

3月には3年生が卒業式を迎えます。ぜひ母校で学んだ知識と誇りをもって、それぞれの進路で活躍、挑戦していただきたいと願っております。

将来性豊かな岩瀬日本大学高等学校並びに教職員の先生方、各支部、卒業生、在校生の皆様のご活躍をご祈念申し上げます。

桜
広報委員長 齋藤 義彰
(北つくば支部)